

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102541		
法人名	株式会社 グループホーム		
事業所名	グループホーム 六条の杜		
所在地	岐阜市六条片田1丁目21番6号 (電話) 058-277-5733		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年10月4日	評価確定日	平成19年11月6日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 7 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 16 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	18,500~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 7 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	55 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原内科、千手堂病院、めぐみ歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大通りから少し中に入った住宅街にホームが建っている。周りは畑も多く、とてもどかな所である。地域密着型になり岐阜市近郊の利用者となって地域に溶け込んでいる。利用者の出来ることを職員が引き出し、楽しみを持って日々の生活を送っている。利用者のペースに合わせてゆったりと決め細やかなケアを行っている。職員が利用者色々なことを教えてもらうということを確認している。緊急時24時間対応可能な医療機関を確保していると共に口腔ケアにも力を注いでいる。また、終末期の受け入れも行っており、家族や利用者との十分な協議を重ね、職員も常に前向きな姿勢で取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム便りの発行、ホームに閉じこもらない生活の支援、家族への日常の様子に関する情報提供、周辺施設等の理解・協力への働きかけなど、前回の改善点への取り組みには至っていないので、今回の評価を機会に改めて改善に取り組む姿勢がある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>自己評価は管理者だけでなく職員も評価に参加している。自己評価、外部評価を踏まえ、具体的な取り組みを前回の改善点と合わせて一つずつ実現できるように進めていく姿勢である。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年度は地区の他ホームとの合同開催であったが、今年度は、市からの要請がないため、ホーム独自では行われていない状況である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安等はホーム訪問時に聞くよう努力している。家族からの意見はその都度協議をして対応を決定している。個人の写真は時々家族に届けているが、ホームの様子がわかる便りの作成は行われていないので検討中である。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>外出する利用者が数少ないので、地域の方に訪問してもらう機会を作る等、ホーム側から地域への働きかけを模索中である。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あいうえお」（あ・愛情 い・一期一会 う・敬い え・笑顔 お・おおらかに）で作られた六条の杜憲章があり、目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議で確認する等、共有を図っている。	○	新しい職員も確実に共有できるよう、理念を様々な機会を捉えて確認し、職員全員が同じ方針でケアにあたる取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、神社の草取りに利用者と共に参加している。	○	利用者の状況に配慮しながらも、地域の方に訪問してもらう機会を作る等、ホーム側から地域のへの働きかけが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、今回の自己評価も職員と共に作成した。昨年度の改善点については、現在も検討中である。	○	今後も外部評価や自己評価を踏まえ、具体的な取り組みを一つずつ実現できるよう話し合いたい。又、評価結果を運営推進会議にも報告し、広く意見を求めるような取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は、地区の他ホームと合同開催であった。今年度は現在のところ開催されていない。	○	運営推進会議は地域の役員や行政、家族が直接顔を合わせ話し合える機会でもある。地域密着型のグループホームとして相互理解や交流の糸口として早急に開催されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護等の制度利用者について相談する等連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、領収書と共に金銭出納帳のコピーを家族の来訪時や郵送で報告している。又利用者の様子は、本人の写真や手紙、電話で報告している。	○	更には、個人の様子と共にグループホームの様子や行事予定等を掲載したホーム便りの定期的な発行が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に直接聞くことを大切にされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が2ユニット利用者全員の様子を把握出来るように、月に1回程度1~2名の職員のユニット間での異動がある。	○	定期的になるべく多くの職員が参加できる職員会議を行い、その中で理念の確認、ケア方針の共有や意見交流をし、離職を最小限に努められるよう期待される。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修には参加費の補助があり、参加できるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は1ヶ月に1回、同法人のホームと会議を持ち、ケアのあり方や問題点等を話し合っている。	○	更には岐阜県グループホーム協議会に加入し、職員も研修会や催しに参加し、情報交換や相互訪問等の交流を図り、サービスや質に反映されることが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からの話より、これまでの生活歴やペースを把握しながらサービスを進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から昔の話を聞いたり、知恵を教えられたり、人生の先輩として学ぶ姿勢を常に持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や利用者の表情により希望や意向を把握している。	○	更には、把握された希望や意向は、申し送りノート等に記入し、職員間で共有、検討をし、いつでも要求に応じられるような仕組みづくりが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや日々の気づきをもとにサービス担当者会議を開き、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、又は、随時見直しが行われている。	○	家族の確認印をもらえるよう早急に対応してもらいたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	退居者に介護情報を提供したり、その家族からグループホームで使うタオルをもらう等、退居後も関わりを持って支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診と訪問看護がある。歯科医の訪問も週1回あり、希望により治療や口腔ケアを受けることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時は、家族とかかりつけ医と話し合い、方針を決めている。かかりつけ医や訪問看護の支援により、これまでもホームにおいて看取りも行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の立場に立った対応を心がけている。又、職員は入社の際、個人情報取り扱いについて誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は、起床時間を決めず利用者が起きるのを待ち、散歩は、利用者の希望や体調、天候に配慮しながら支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、後片付け等、それぞれの利用者が出来る範囲内で行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後準備し、利用者の希望に添って無理強いすることなく週3回程は入浴している。一人ひとりの着替えをかばんに入れ、脱衣所の棚に準備し、利用者の力に応じて入浴や着替えの支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	和裁や書道、洗濯たたみやカレンダーめくり等、利用者の楽しみや役割を支援している。又、誕生日には利用者の希望の店へ職員と外食に出かけることを楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮しながら、毎日交代で散歩に出かけている。散歩が難しい時は、ホーム前の駐車場で外気浴、日光浴を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵については、昼間は開錠し夜は施錠する管理である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成している。近々消防署と合同で避難訓練を行う予定である。	○	利用者の状況に配慮しながら、ホーム独自で利用者と共に非難経路の確認を行ったり、ホームが災害時における地域の緊急避難場所に指定されていることから、自治会 民生委員などからの協力が得られるよう働きかけも期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1300カロリーを目安に献立が立てられ、毎食の摂取量や水分の1日のトータル摂取量が記録・把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者が安全で動きやすく、職員も見守りがしやすいような配置になっている。壁には、手作りの装飾品が飾られ暖かい雰囲気がかもし出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは持ち込みも可能であり、退居者が置いていかれたベッドを使うことも可能である。居室は利用者が使いやすいように配置されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。